

【各大学の作品概要】

京都精華大学（国際会館駅）	イメージ
<p><u>タイトル：『OUR WARM HOME 地球』</u></p> <p>2011.03.11 東日本大震災で多くのものを失った日本。この震災は海外でも大きく伝えられ、世界各国からたくさんの暖かい支援が届けられました。言葉・文化の違う国同士の助け合い。私たちの住む地球はまさに愛に満ちあふれています。そのような地球をテーマに陽の当たらない冷たく閉鎖的な印象を持つ地下鉄構内を、世界各国が混合した様々な動物が住む暖かな愛に満ちた世界で彩ります。</p> <p>（タテ約2m × ヨコ約30m）</p>	
京都工芸繊維大学（松ヶ崎駅）	イメージ
<p><u>タイトル：『MEJI Promenade』</u></p> <p>閉ざされた空間、無機質、通り道、味気ない、このようなイメージが地下鉄の空間にはありました。そして地下鉄の空間いっぱい広がるタイルのメジ、メジ、メジ。私たちはこのメジに装飾を施すアートを考え、今までとは全く違う空間を演出します。毎日通るひとへ、初めて訪れる人へ、ただメジの前を歩くだけで、なんだか楽しい気分になってもらえたらと思います。</p>	
京都府立大学（北大路駅）	イメージ
<p><u>タイトル：『賀茂川の四季のランドスケープ』</u></p> <p>賀茂川は、京都の街の中を流れる都市の川です。国内でもこれほど街の中で市民に接している川はありません。皆さんが日常、目にされているこの賀茂川は、京都の四季を映し出す場所でもあり、生態系の豊かな空間でもあるのです。賀茂川の河川敷をゆっくり散歩して周りを見てみませんか。そこかしこに生き物たちが見られると思います。そこから京都の新たな四季を感じてもらえるかもしれません。このパネルは、賀茂川の五つの季節『春』・『梅雨』・『夏』・『秋』・『冬』を表現してみました。</p>	
<p><u>タイトル：『建築標本 2011～地中にある地下鉄の駅～』</u></p> <p>地中にある地下鉄の駅は、内部性の強い空間です。</p> <p>また同時に、街の延長である地下鉄の駅は、外部性の強い空間でもあります。さてここは内なのでしょう、外なのでしょう。大学で建築デザインを学ぶ私たちは、内部と外部の関係を普段から気にかけています。なぜなら、内と外をうまく連携させることが、現代建築の目指すべきデザイン手法の課題としてあるからです。私たちは、普段思っている内と外の間を作品にしたいと考えました。そして地下鉄はこのテーマを考えるのに、ぴったりの対象だと思います。</p> <p>私たちは、内部と外部が曖昧で、なおかつ対比的な建築要素で構成されたレリーフを作成しました。標本箱の中に地面と植栽をつくり、壁や床や屋根、人を配置しています。地下鉄を利用する皆さんに、空間について思考する遊びを提案します。</p> <p>「どちらが内でどちらが外でしょう？」</p>	